

第 49 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	稲田ゼミⅡ	チーム名	稲田ゼミⅡ
タイトル	外国人マナー違反をどう解決するか？		
テーマ群	g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>研究の背景と目標</p> <p>訪日外国人が増加したことによって「観光公害」が多くみられるようになった。文化の違いなども影響しているのだろうが、京都の観光地が受けている被害の一例に、無断での私有地立ち入り、舞妓へのマナー違反行為、ゴミのポイ捨て等の常習化が問題となっており、インバウンドの増加を阻害している。現在でも注意喚起をする看板やアナウンスは行われているが、あまり改善していないのが現状である。日本は、東京オリンピック、パラリンピックを控えており、訪日外国人が急増することが見込まれているため、早急に対策することが必要だと考えられる。そこで、「どうすれば訪日外国人のマナーを改善することができるか」という問題に対して、最新の対策案を取り入れながら解決策を提案することを我々の目標とする。</p> <p>研究の内容と期待される効果</p> <p>わたしたちは「観光公害」を改善するために外国人のマナーに着目し、アプリを利用した方法での呼びかけが導入されつつあるというところに焦点をあてた。最近では、外国人観光客のマナーが問題化している京都市東山区の祇園町南側の「花見小路」周辺で 2019 年 9 月 30 日から 12 月 8 日まで、マナー啓発情報を宿泊施設が無料で貸し出しをしているスマホや訪日外国人客向けのアプリを入れているスマートフォンにプッシュ通知で知らせる仕組みの実証実験が行われている。ただ、これは施行されて間もないため、成果に関してはまだ把握されていない。そこで、私たちが現地に足を運び、このアプリの利用状況を外国人観光客に尋ね、普及率の調査を行う。また、そこから得られた情報を元に、どのような工夫を凝らせばマナー改善に繋がるのかについての提案をする。外国人観光客のマナーを改善することにより、規則を破る日本人への戒めを図るとともに、インバウンドの増加を促進するといった成果が期待される。</p>		